

I-0042

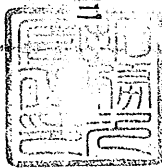


文書課

管地第四一四號

昭和十二年八月十九日

拓務次官 萩原彦三



外務次官 堀内謙介 殿

明治二十八年勅令第百六十七號標準時ニ  
關スル件廢止ニ關スル件

臺灣及澎湖列島（沖繩縣八重山、宮古列島ハ同時ニ實施ノコトニ  
主務省ト協議濟）ニハ標記勅令ニ依リ西部標準時ヲ適用シ今日ニ  
至レル處時運ノ進歩ニ伴ヒ昭和十二年十月一日ヨリ時差ヲ撤廢シ

昭和十二年八月廿日 接  
別紙添附

タイプライター用紙半裁（普通納）

（日本標準規格 B.5）

拓務省



秘書官

中央ノ標準時ニ依ルコトニ致度同勅令廢止案別紙ノ通提出可致ニ  
付御了承相成度

タイプライター用紙半裁（普通納）

（日本標準規格 B.5）

拓務省

I-0042

朕明治二十八年勅令第六十七號標準時ニ關スル件廢止ノ件ヲ裁  
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和年月日

内閣總理大臣  
文部大臣  
拓務大臣

勅令第 號

拓務省

明治二十八年勅令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

クイブライター用紙 (舊田録)

(日本標準規格 B.4)

I-0042

課

發專一四號

昭和十二年八月二十四日

昭和十二年八月廿四日接受

文 部 次 官

外 務 次 官 殿

秘書官

標準時改正ニ關スル件

今般臺灣總督府並ニ沖繩縣ヨリノ申請ニ依リ別紙ノ如キ理由ニ基キ明治二十八年勅令第六十七號「標準時變更」ヲ廢止シ明治十九年勅令第五十一號「本初子午線經度計算方及標準時」ヲ左記要綱ニヨリ改正シ昭和十二年十月一日ヨリ實施ノ豫定ヲ以テ右勅令改正ノ手續致度キ處本改正ニ關スル貴省ノ御意嚮至急御同示相煩度此段照會ス

記

「本初子午線經度計算方標準時」改正要綱

一、英國グリニッチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス

二、經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス

三、昭和十二年十月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ帝國標準時ト稱シ本邦一般ノ常用時ト定ム

四、帝國標準時ノ測定、保守、發表ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

五、本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(改正理由大要)

一、沖繩縣管内宮古八重山二郡ハ明治二十八年十二月二十八日勅令第百六十七號第二條ニ依リ臺灣ト同シク西部標準時ヲ使用スルコトナリ爾來四十餘年ヲ閱シ同一管内ニ於テ實時差十數分ナルニ拘ラス中央西部兩標準時ノ二者ヲ使用シ來リ行政上縣民生活上其ノ他幾多ノ不便苦痛ヲ忍ビテ今日ニ至レルガ近年文化的施設ノ普及發達ニ伴ヒ無線電信、電話ノ開通、航空路ノ開拓、優秀船ノ就航等ニ依リ、海上空中ノ距離著シク短縮セラレ縣勢上縣民生活上一大革新ト飛躍ヲ要スヘキ時機ノ秋ニ際會シ二種ノ標準時ヲ使用スルコトハ各般ニ亘リ支障多ク縣民舉ツテ同一標準時ノ使用ヲ熱望セリ

一、臺灣ノ位置ハ附屬島嶼ヲ加ヘ極東ハ東經百二十二度六分二十五秒、極西ハ百十九度十八分十三秒トス臺灣ノ我領土ニ歸スルヤ略其ノ中央ヲ

通過スル東經百二十度ノ子午線ヲ以テ本地方ノ標準時決定ノ基準トシ以テ帝國中央標準時ヨリ一時間ノ時差ヲ以テ帝國西部標準時設定セラレ今日ニ至レリ然乍ラ臺灣文化ノ進展ハ日ト共ニ著シク殊ニ近年ニ至リテ經濟事情ニヨル内臺流通物貨ノ統制連絡及航空、海運ノ發達電信電話ノ有無兩線ノ連絡ノ躍進、ラヂオノ普及等ハ内地トノ距離ヲ著シク短縮セルモノト認ムヘク且最近ニ於ケル帝國南方ノ鎖鑰トシテ本島ノ國防的經濟的現状ハ愈々内地ト緊密ナル活動體タルヲ期待スヘキ秋内臺間時差ノ存在ハ兩者ノ間ニ於ケル迅速敏活ナル即應活動ニ支障ヲ生スルコト多ク其ノ憾ハ時ト共ニ加速度的ニ痛感セラルルモノアリ官民各方面ニ於テ時差撤廢ヲ要望スル聲ハ次第ニ喧稱セラルルニ至レリ加之本年一月ヨリ隣邦滿洲國及關東州ハ既ニ標準時ヲ中央ニ合流セルアリ地理的事情ヨリ見ルトモ亦國內ニ特ニ異標準時ヲ存置スル理由ナ

キヲ證スルヲ得ヘク又此ノ時差ノ撤廢ニヨリ亭々ル内臺諸方面ノ利  
益ハ之ニ依リテ忍フヘキ價行ニ狎レタル爲ニ來ル一時的不便ヲ償ヒ  
テ尙餘リアリト言フコトヲ得ヘシ。

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並ぶ）

I-0042

○本初子午線經度計算方及標準時

明治十九年七月十三日  
勅令第五十一號

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一英國グリニツチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度  
ノ本初子午線トス

一經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ  
西經ヲ負トス

一明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本  
邦一般ノ標準時ト定ム

○標準時變更

明治二十八年十二月二十八日  
勅令第六十七號

朕標準時ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時ト稱ス

第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重

山及宮古列島ノ標準時ト定メ之ヲ西部標準時ト稱ス

第三條 本令ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

I-0042

公 信 案

外 務 省

議 無 之 付 右 標 印 了 知 相 成 度 此 段 回 答

中 達 有 之 知 本 官 當 省 上 之 何 等 異

令 改 正 方 之 辦 之 當 省 意 向 申 事 中 意 旨 部

法 政 司 令 大 改

發信用執務用	
主 信	
附 甲	
乙	
丙	
丁	
備 考	

件 名 人 信 受

文 部 次 官

文 書 課 發 送 昭 和 拾 貳 年 九 月 四 日 發 送 濟 淨 書

昭 和 十 年 八 月 三 日 起 草

正 校 (原 稿) (淨 書)

昭 和 十 年 八 月 三 日 附 附 屬

名 件 錄 記 名 人 信 發

外 務 次 官

此 函 之 厚 抄 在

自 標 準 時 改 正 之 案 之 件

九 月 二 十 四 日 附 發 專 一 一 四 號 之 函 台 際 練 習 島

新 註 沖 繩 縣 之 於 之 標 準 時 變 更 之 案 之 勅

次官

4 107



昭和十二年八月二十五日

東亞局長	歐亞局長	亞米利加局長	通商局長	條約局長	情報部長	文化事業部長	調查部長	人事部長	電信部長	會計部長	儀典課長	秘書官
殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿

文書課長



外務省

12.7

は(下)

臺灣並沖繩縣ニ於ケル標準時改正方ニ關スル件  
 今般文部次官ヨリ臺灣總督府並ニ沖繩縣ノ申請ニ依リ同地方ニ於ケル時差ヲ撤廢シ中央標準時ニ合流セシムル爲右ニ關スル勅令改正ノ手續致度キ趣ヲ以テ當省ノ意嚮至急回示アリ度旨別紙甲號ノ通り申越セリ右ニ對シ當省トシテ差支無之旨回答シ可然キヤ此段及協議候也

追而本件ニ關シテハ拓務次官ヨリモ別紙乙號ノ通り通牒アリタリ

外務省

12.7

I-0042

拓務省

(日本標準規格 B.5)

成度

タイプライター用紙半裁 (昔田納)

拓務省

(日本標準規格 B.5)

類丁人3.0.8

儀典課長

會計課長

人事課長

電信課長

秘書

管地第四一四號

昭和十二年九月二十四日

拓務次官 萩原彦

外務次官 堀内謙介 殿



明治二十八年勅令第六十七號標準時ニ關スル  
件中改正ノ件

臺灣及澎湖列島ノ時差撤廢 (沖繩縣八重山及宮古列島モ同時ニ實施)  
ノ件ニ關シ八月十九日附管地第四一四號ヲ以テ御通知致置キタル處  
明二十五日官報ヲ以テ之ニ關スル勅令公布セララルルニ付右御了知相

名件

時向 7.3.2

昭和十二年九月廿五日接交

タイプライター用紙半裁 (昔田納)



I-0042

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

送

(分類 113.018)

昭和12 二三五五三 平

臺北 廿五日後發  
本省 九月廿五日夜着

亞

臺灣總督府總務長官

堀内外務次官

昭和十二年十月一日臺灣ノ標準時ハ中央標準時ニ據ルコトニ改正セラレ昭和十二年九月三十日午後十一時ヲ以テ十月一日午前零時ト爲スコトナリタルニ付貴管下各關係ノ向ニ對シ周知方御配慮相煩度シ(了)

台件

12/25

外務省

記

I-0042

